

私たちの  
思い出の場所

## 中華軽食 三八ラーメン 住吉店

みやぐちあきのり  
常務取締役 宮口哲典 さん

### いつの時代も変わらない思い出に残る豚骨ラーメン



買い物の途中に気軽に立ち寄れる店構え。

昭和38年10月、祖父にあたる創業者が“長崎独自のラーメンを作りたい”という思いを持って、本店を長崎市銅座町に開店しました。その後浜町店、銅座店に続いて、昭和54年5月に住吉店を開店。当初は平屋の

建物から始まったと聞いています。

店がある住吉商店街は、私が生まれ育った町でもあります。子どもの頃はたくさんの買い物客が訪れる、毎日がお祭りのような賑やかな場所でした。当店も周辺の店から出前の注文が多く、深夜0時まで営業していました。また、毎年3月8日は「三八の日」と題して、1杯100円(大盛り200円)でラーメンを提供。猫の手も借りたいほど大忙しでした。長崎大学の学生さんも、食べに来てくださっていたと思います。「三八の日」が終了して随分経った今でも、問い合わせくださる方や来店される方がいらっしやるんですよ。



通年メニューのおでんは、人気のため夏場も提供。  
写真は住吉店副店長の里博之さん。

現在は、長崎大学工学部の学生さんがアルバイトを頑張ってくれています。1年生の頃から働き始めては3年。責任感のある仕事ぶりで気配りもでき、とて



“変わらない長崎の味”をモットーに麺と一体化するよう考えられたスープは、豚骨ベースの少クセのある味わいが特徴。2種類の味付けをした三枚肉とメンマ、ネギ、ゴマがトッピングされています。

も頼りになる存在です。

創業62年。住吉店は47年になります。時代が大きく変化する中で、現代にも通用するラーメンを作ってくれた祖父に感謝しながら、これからも三八の味を守っていきたいと思っています

ます。卒業生の皆さんにも、ぜひ食べに来ていただきたいです。“長崎にこういうラーメンがあったな、懐かしいな”と学生時代を思い出していただけるように、私たちが切磋琢磨します。皆さんのご来店をお待ちしています。

### アンケートのご協力をお願い

以下を明記の上、広報紙Chohoへのご意見・ご感想をお寄せください。

- ①面白かった記事 ②本紙に対するご意見・ご感想
- ③今後取り扱ってほしい内容
- ④長崎大学からの情報発信全般についてのご意見・ご感想
- ⑤本学との関係 ⑥年齢 ⑦氏名(ふりがな)
- ⑧郵便番号 ⑨住所 ⑩電話番号



◎はがき：〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学広報戦略本部 宛て

◎FAX：095-819-2156 ◎メール：kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp

◎募集期間：2026年10月末まで

### 読者プレゼント

アンケートにご協力いただいた皆さまの中から、抽選で10名様に、長崎大学オリジナルQUOカード(500円分)をプレゼントします。賞品の発送は2026年11月を予定しています。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。



### 長崎大学SNSサイト



X



Facebook



Instagram



YouTube

## Choho

定期送付サービス  
受付中!



広報紙Chohoはその多くを、各学部同窓会様の会報誌送付の際に、直近の号のみ同封してお送りしています。そのため、読者の皆さまには必ずしも毎号お届けできないケースがあり、「定期送付をしてほしい」とのお声をいただいております。定期送付を希望される場合は、上記サイトへアクセスしていただき、ご登録をお願いいたします。皆さまのご利用をお待ちしております。

送付先変更のご連絡はこちらまで



### 編集後記

かつて鎖国の時代、日本で西欧との交流が続けられていた長崎。出島を通じて多様な文化が行き交った長崎は、古くから独自の歴史と風土を育んできました。そうした環境の中で育まれた長崎の方言は、人々の暮らしに寄り添いながら受け継がれてきた言葉です。例えば、秋の長崎を彩る「長崎くんち」の掛け声に混じる長崎弁の響きは、祭りの熱気とともに、先人たちが紡いできた暮らしの記憶を今に伝えています。

今回の取材を通して、方言とは単なる言葉ではなく、人々の営みや歴史そのものを映し出す「生きた文化」であることを改めて実感しました。そして、普段私たちが何気なく使っている言葉の中には、県外の方には通じない言葉があると知り、驚くと同時に、言葉の違いが生む面白さを感じる機会にもなりました。

その方言が今、静かに姿を消しつつあります。消えゆく方言を記録し、研究し、未来へ残そうとする取り組みは、まさに文化の継承そのものです。だからこそ私たちもまた、方言を日常の中で使い続けていくことが文化を守り伝えることにつながるのだと感じました。

本号が、長崎の方言とともに長崎の文化の魅力を知り、その奥深さに触れていただくきっかけとなれば幸いです。

(広報戦略本部 前田美咲)